

## 第1回 関東地方河川堤防復旧技術等検討会

### 議事要旨

(委員からの主な意見)

日時：平成23年4月27日 13:00～15:30

場所：九段第三合同庁舎 11階共用会議室 4

#### 議事

##### ① 被害の概要及び検討内容について

- 余震によって被害が増大しているが、余震の震源位置との関係や降雨量との関係についての視点を加えた整理などの工夫を行うと良い。

##### ② 平成23年度出水期に向けた対応について

###### <ハード対策>

- 構造物について取り付け部が落ちているものは堤体と構造物の間が弱点箇所になっている可能性があるので調査が必要。
- 旧河道といった分類は50mを超えるオーダーの空間を有している。これに対し噴砂地点を考えた場合50cmオーダー程度のものがいくつもあり、これら全てに事前に対応するのは困難であることから、いざという時に対応できる体制づくりが重要である。
- 出水期間中に得られたデータをフィードバックして、事前の水防工法の対応箇所を見直していくような体制が必要である。

###### <ソフト対策>

- 過去の地震において、天端クラックの復旧工事を行った際に斜めのクラックや空洞が生じている場合があった。このような箇所は砂の充填では対応できず、危険性を排除しきれないのではないかと思う。警戒を始める基準を厳しめにして、ある程度安全側を見ておく必要がある。

##### ③ 平成24年度出水期に向けた対応について

- 阪神淡路大震災と今回のものは液状化のメカニズムが異なっていると考えられる。阪神震災は揺れが大きく繰り返し回数が少なかった。今回は揺れの大きさよりも長く揺れたことで液状化しており、構造物を動かすような慣性力としては大きくなかったと考えられる。